

鉛筆に感謝の思い

新座市立池田小3年

安藤

渚^{なつき}月

8

(新座市)

小学校に入学してから、毎日
つかっているえんぴつ。50音を
ならった時も、10までの数をお
ぼえた時も、いつもいっしょで
した。

字がうまくかかなくて、なき
そうになりながら何回もれんし
ゆうし、計算をたくさんして丸
くなったえんぴつ。「シャキ
ン」ととがらせて、またいつし
よにべんきょうをしました。思
い出のつまったえんぴつは、短
くなってもすてられず家にとつ
てありました。

ある日、校長先生が短くなつ
たえんぴつをあつめて、どこか
に送るボランティアをしている
のを知って、きふすることにし
ました。「ありがとう」とかん
しゃの気もちをこめて、「さよ
うなら」をしました。

古くなったり、つかえなくな
ったりしたかからといって、すぐ
にすててはいけないということ
を、えんぴつにおしえられた気
がします。